

「きっと笑って会える日を」(対象：中学校～高等学校) 平成29年9月1日付け

1 授業のねらい

＜知的理解に関して＞

結婚差別について、「部落の人」というだけで、結婚を反対されること不合理さや、差別を「する方」も「される方」も両方を不幸にすることを理解できる。

＜人権感覚に関して＞

差別者であった両親が、どうして差別が地球上から無くなることを願うようになったかを、娘たちとの交流による心情の変化や手記の内容を考える活動を通してとらえ、差別をした母親も苦しみ、学習することで差別があってはならないと考えたことがわかる。

2 教材について（教師が知っておくべきこと）

憲法では結婚は両性の合意に基づくとされているが、現在も部落の人に対する結婚差別は根強く存在しており、深刻な部落問題となっている。

大分県民意識調査【平成25年】において、「あなたのお子さんが同和地区の人と結婚するとしたらあなたはどうしますか（どうすると思いますか）？」という問いかけに対する回答は以下のようになっている。

- ・同和地区の人かどうかは関係ない、反対などしない（40％）
- ・できれば同和地区の人でない方が良いが、反対はしない（21％）
- ・反対するが、本人の意志が強ければやむをえない（12％）
- ・絶対に反対する（3％）
- ・わからない（24％）

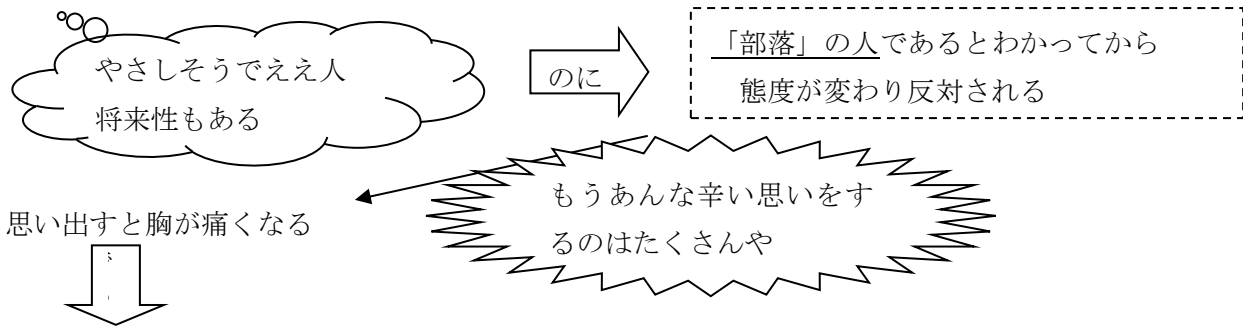
この結果からも、かなり多くの人が、同和地区の人との結婚を避けようとする意識が強いことがうかがえる。特に、結婚差別に関しては、本音と建前が入り交じることが多く、「結婚差別をどのように扱うか」は、授業者にとって深い熟考が必要な課題である。

教材文を読んで、「可哀想」という「同情」と、「許せないことだ」という「正義感」の建前だけで終わったりすることにならないよう、結婚差別の不合理さについて、知的理解と人権感覚の両方の視点から生徒の考えを深めていきたい。

本教材では、結婚差別は差別された本人にとって重大な問題であるが、差別をする側にとっても結局不利益であることを理解させたい。つまり、差別は「する方」も「される方」も両方を不幸にすることを実感を持って感じ取らせたい。また、差別の厳しさを知らせることは必要だが、まわりの差別と闘い、それを乗り越えて結婚していく姿に、差別を克服する展望を見出させたい。さらに、結婚に反対していた両親が変わっていく姿の人間らしさを感じさせ、自ら考え行動することの大切さを学ばせたい。

3 教材のあらすじ

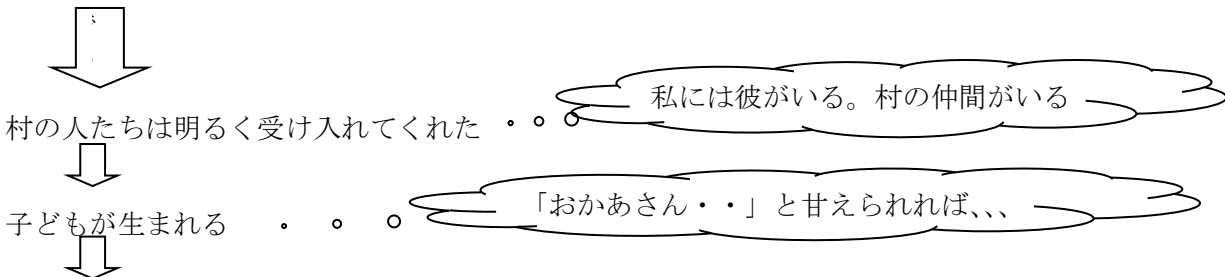
《彼に対する親のはじめの印象》



悩むことなく家をとび出していたら、今の私はなかったでしょう。自分の恋愛・結婚を通して差別を知り、解放運動にめざめ、充実した日々を送る喜びを感じることはなかったのではないかと
思うのです。

1976年9月 一人ぼっちで「北芝」にやってくる。

もうこれで親、兄姉と会うこともないだろうという覚悟のうえの結婚



「このままではいけない」「もう一度、実家のみんなに会いたい」

「私たちのことをわかってほしい」

やっぱり分かってもらうよう努力することが私たちの解放運動なんや

でも、長い間悩む
子どもができたことを報告しなければ 家を出てはじめて電話をかける
「元気ですか。赤ちゃん産まれたよ」と言うのがせいっぱい

この電話をきっかけに親との接触がはじまった。
結婚して8年目によく家に帰ることができた。

まず私たちの生活や活動を知ってもらうことがいちばん



- ・身近な気になる表現について話す
 - ・差別について書かれた書物や新聞の切り抜きを送る
- 「開け心が窓ならば」→新聞の投書欄の、主に部落問題に関する投書を集めたもの**

母から
電話

母「本、読んだよ。
世の中になんで差別なんかあるんやろ」

- ・あらゆる差別を許さない闘いをしていることを話す
- ・沖縄の差別を扱った人形劇へ招待する

父「沖縄の問題を自分のこととして考えていきたい」

私が生きた 20 数年間の中で最高の喜び

1987年12月6日 気がかりだった兄の結婚式と

もう一生会えることはないと思っていた姉たちとの再会

母「あんたにぜひ出席
してもらいたい」

やっぱり私のことをきに
かけてくれていたんだ

家にいたころより両親と仲良くなれた

4 学習展開

授業時数については、2時間程度の扱いを想定

学習活動	指導及び支援の留意点
<p>1 教材文のあらすじをつかむ</p> <p>2 それぞれの場面での泰子さんの心情をとらえる</p> <p>3 両親が変わった理由を考え、それを喜ぶ泰子さんの心情に迫る。</p>	<p>○別表のように、泰子さんと家族や周りの人々との関連や時間的な変遷を構造的に示し、とらえやすいようにする。</p> <p>○彼に対する親の印象は、はじめは良かったのに、「部落」の人とわかってから親の態度が変わったことを押さえる。「辛い思いをするのはたくさんや」とまで思ったのに、どうして「充実した日々」を送る喜びを感じられるようになったのかを話題にしなが、次の場面に興味を持たせる。</p> <p>○「北芝」にやってきた時からようやく家に帰るまでの気持ちの変容をつかませる。「子どもができた報告は普通なら喜んでするものなのに、悩みながらしなければならぬこと」や「8年も家に帰ることができなかったという歳月の長さ」に着目させ、親・兄弟とのつながりも断ち切られていた泰子さんの心情を考えさせる。</p> <p>○はじめの場面をふりかえり「何もわかってくれへんこんな親、こんなきょうだい」と思っていたのに、「両親を信頼しました。尊敬しました」となっていることに着目させる。両親に対する考え方が変わったことを話題にしなが課題を位置づける。</p> <p>○「<u>以前は差別する側に立っていた両親が、今では差別に反対する立場に立ってくれている</u>」をキーワードに<u>両親の変容を喜ぶ泰子さんの気持ち</u>について意見を出し合わせる。</p>
<p>(以前は差別する立場に立っていたのに)</p> <p>課題：母親が「差別」が地球上から消え去ることを願うようになったのはなぜか？</p>	
	<p>○これまでの学習を通した母親の様子や、手記の「だんだんと私共の気持ちが変わっていきました」をもとに考えさせる。</p> <p>○「3つの視点」を活用し、考えを深めさせる。</p> <p>【自己選択・決定①】 自分の考えを持てるよう、ワークシート等を活用し記述させる。</p> <p>【自己存在感】 個→グループ→全体 等の考えを出し合う、示す場を工夫する。</p> <p>【共感的関係】 出た考えをもとに話し合う。考えを深める工夫として、課題に対する考えを以下の視点で分類する。</p>

「さりげなく送ってくれる本を読んでいくうちに気持ちが変わっていった」に着目して

<事実を知っていったから>

- ・ 何で差別があるのかと思い出した。
- ・ 泰子さんの思いが通じはじめた。

偏見を持って接してきたことを恥ずかしいとさえ思えるようになった。

「もし娘が部落の男性と結婚しなかったら」に着目して

<自分も苦しんだから>

- ・ 誤った考えをなおせた。
- ・ 人を平気で差別する人間でなくなった。

娘に本質を見ることを教えられたことをありがたいと思えるようになった。

4 まとめをする。

○出された意見をもとにまとめにつなげる。

【自己選択・決定②】

自分の考えと友達の考えを比べて考えさせる。考えの変容や深まりを記述させる。

まとめ（例）：

差別をした自分も苦しみ、学習することで差別があってはならないということが本当にわかったから

学習の実態に応じて、以下のような事例をもとに、結婚差別についてのふりかえりをおこなう。

- ・ 県民意識調査のデータ等を使って、同和地区の人と結婚を避けようとする意識があることを知らせる。
- ・ 「プライム事件（戸籍不正取得事件）」や「『全国部落調査』復刻版出版事件」など結婚差別に直結する部落差別問題について説明する。